

共通体育武道系種目プロジェクト研究報告(1)

鍋山隆弘¹⁾, 堀出知里²⁾, 坂本道人²⁾, 成瀬和弥²⁾, 小俣幸嗣¹⁾

1. 問題と目的

共通体育では、希望者が集中する人気種目が存在する一方で、武道系種目は例年不人気種目である。人気の理由は肯定的イメージであり、逆に不人気の理由はおそらく種目に対する否定的イメージであろう。それらのイメージは、授業での体験を通して変化しうるものなのか、それとも不変のものなのか。

武道に対するイメージに関しては、既に多くの知見が提示されている。花田(1987)は、大学生の武道に対するイメージを22の形容詞対を用いたSD法(Semantic Differential Method)によって検討し、柔道、剣道、すもう、空手、弓道の各種目の相違を明らかにした。「柔道」は「男らしく、激しく、大きくて重く、たくましいが痛い」種目、「剣道」は「速くて機敏な」種目、「すもう」は柔道とよく似ており「男らしく、激しく、大きくて重く、たくましい種目であるが、柔道に比べて激しく、痛いという反応は少ない」種目、「空手」は「男らしく、たくましく、速くて機敏であるが、硬くて痛いうえに危険で恐ろしい」種目、「弓道」は他の種目と全く異なり「静かで美しい」種目、と、分析の結果をまとめている。また、加賀(1993)は大学生の武道実施者(武道系クラブに所属している者)と非実施者を対象として同一の質問紙調査を行い、それぞれの結果を因子分析してイメージ構成因子の違いを検討した。因子を貢献度の大きなも

のから整理すると、武道実施者では「快活な社会性因子」、「意志性因子」、「行動を伴う意志性因子」、「情緒性因子」、「活動的因子」、「身体的因子」、「日本の社会性因子」が、非実施者では「日本の社会性を持つ好戦的因子」、「意志性因子」、「外的な社会性因子」、「きまじめな社会性因子」、「身体的因子」、「行動を伴う社会性因子」が抽出され、武道実施者は武道のイメージとして快活な社会性や意志の強さを、非実施者は日本の社会性を持つ好戦的な感じや意志の強さを、それぞれ武道のイメージとして持つことがわかった、と結論している。

本研究と同様に、大学における正課体育として武道系種目を受講している学生を対象とした例では、剣道受講生の剣道に対するイメージを扱った木原ら(1978)、田島ら(1990, 1991, 1992)の研究、柔道受講生の柔道に対するイメージを扱った小俣ら(1993)の研究がある。これらの研究も、SD法もしくは因子分析的手法を用いて武道系種目のイメージを明らかにしており、これらの手法がイメージ研究によく用いられてきたことがわかる。

ところで、上述のような数量的手法によってイメージを把握することも可能であるが、授業の感想文などには武道の印象が学生自身の言葉でいきいきと記述されており、注目に値する。「初めは〇〇と感じていたが、取り組むうちに〇〇に変わった」というような、学生自身から出てきた言葉は時に本質を突いている。筆者らはそれに着眼し、そのようなデータを活用して学生の変化を理解する簡易

1) 筑波大学人間総合科学研究科

2) 筑波大学体育センター

な方法を開発しようと考えた。そこで、授業の感想文にみられる学生の記述を基に「武道に対するイメージ」についての簡単な質問紙を作成し、共通体育の授業を通して武道に対するイメージが変化するか否かを検討しようという発想に至った。本報告では、研究全体の一部として、「共通体育受講生の武道に対するイメージの構造」を、因子分析の結果に基づいて提示する。

2. 方法

2-1 対象

平成17年度筑波大学共通科目「体育」(必修科目・通年実技)において武道系種目を受講した学生を調査の対象とし、協力を得られた281名(柔道77名, 剣道137名, 弓道37名, 空手30名)のデータを分析の対象とした。

2-2 調査内容

平成16年度以前の武道系種目受講生による授業の感想文から、武道に対する印象変化が語られている部分を抜粋し、他の種目にも適用できる表現に改め、表1に示す30項目を7段階(「全然感じない」から「非常に感じる」までを-3・-2・-1・0・+1・+2・+3とした)で評価させる質問紙を作成した。

表1 質問項目

1 親しみやすさを感じる	16 活動的だと感じる
2 激しさを感じる	17 硬派だと感じる
3 楽しさを感じる	18 矢しきを感じる
4 奥深さを感じる	19 苦痛に満ちていると感じる
5 日本的だと感じる	20 複雑だと感じる
6 男性的だと感じる	21 清潔さを感じる
7 すがすがしさを感じる	22 威しきを感じる
8 伝統的だと感じる	23 礼節があると感じる
9 危険だと感じる	24 保守的だと感じる
10 静かさを感じる	25 明るさを感じる
11 神秘的だと感じる	26 精神性があると感じる
12 難しさを感じる	27 おもしろさを感じる
13 憂鬱さを感じる	28 力強さを感じる
14 古さを感じる	29 いさぎよさを感じる
15 ふっこよさを感じる	30 おたやかしさを感じる

2-3 手続き

平成17年度1学期の最終授業で質問紙を配布し、回答後すぐに回収した。

2-4 データ処理

調査結果について因子分析を行い、共通性または因子負荷量が低い項目を削除してから因子の解釈およびクロンバックの α 係数による内的整合性の検討を行った。

3. 結果

主因子法、バリマックス回転による因子分析の結果および α 係数を、表2に示した。

得られた7つの因子について、共通性または因子負荷量が低い(0.4未満)の項目を除いて因子の解釈を行い、それぞれに因子名を付した。

因子Ⅰは、「礼節」、「厳しさ」、「伝統的」、「精神性」、「かっこいい」といった、格調や品位の高さをイメージさせる項目で構成されていることから、「品格」因子とした。

因子Ⅱは、「清潔」、「美しい」、「静かさ」、「すがすがしさ」、「明るさ」といった、さわやかな落ち着きをイメージさせる項目と、マイナスの負荷量を持つ「危険」すなわち「安全」をイメージさせる項目で構成されていることから、「爽快安心」因子とした。

因子Ⅲは、「楽しさ」、「親しみやすさ」、「おもしろさ」、「明るさ」、「活動的」といった動きをとまなう快さとわかりやすさをイメージさせる項目で構成されていることから、「明快」因子とした。

因子Ⅳは、「力強さ」、「いさぎよさ」、「活動的」、「豪快さ」といった、躍動的な力強さをイメージさせる項目で構成されていることから、「動的」因子とした。

因子Ⅴは、「難しさ」、「複雑さ」といった、たやすく理解できないことをイメージさせる項目で構成されていることから、「難解」因子とした。

因子Ⅵは、「苦痛に満ちている」、「危険だ」といった、痛みや苦しみをイメージさせる項目で構成されていることから、「苦痛」因子とした。

表2 因子分析の結果

	I	II	III	IV	V	VI	VII	共通性
因子 I : 品格 ($\alpha=.73$)								
礼節があると感じる。	0.67	0.07	-0.07	0.14	0.00	0.01	0.09	0.48
厳しさを感じる。	0.66	0.00	-0.13	0.23	0.26	0.13	-0.07	0.59
伝統的だと感じる。	0.55	0.05	0.01	0.13	0.14	0.16	0.44	0.56
※ 奥深さを感じる。	0.48	0.10	0.20	-0.08	0.07	-0.07	0.23	0.35
精神性があると感じる。	0.48	0.27	0.01	0.31	0.06	0.06	0.20	0.45
かっこよさを感じる。	0.46	0.24	0.33	0.33	0.13	-0.08	-0.08	0.52
※ 硬派だと感じる。	0.38	0.25	-0.22	0.29	0.12	0.25	0.03	0.42
※ 古さを感じる。	0.37	0.06	-0.12	0.18	0.08	0.35	0.20	0.35
因子 II : 爽快安心 ($\alpha=.52$)								
清潔さを感じる。	0.06	0.67	-0.10	0.03	0.07	0.00	0.06	0.47
美しさを感じる。	0.30	0.62	0.26	0.12	0.00	-0.03	0.01	0.56
静かさを感じる。	0.22	0.61	0.02	-0.21	-0.13	-0.01	0.03	0.49
すがすがしさを感じる。	0.17	0.60	0.30	0.18	0.00	-0.01	-0.05	0.52
※ おだやかなさを感じる。	-0.12	0.47	0.11	0.00	-0.05	-0.03	0.09	0.26
※ 神秘的だと感じる。	0.35	0.40	0.14	0.01	0.13	0.19	0.01	0.36
因子 III : 明快 ($\alpha=.77$)								
楽しさを感じる。	0.02	0.03	0.77	0.02	0.03	-0.07	0.04	0.60
親しみやすさを感じる。	-0.09	0.13	0.71	-0.13	-0.05	-0.08	0.04	0.55
おもしろさを感じる。	0.08	0.11	0.69	0.17	0.09	-0.17	0.04	0.57
明るさを感じる。	-0.21	0.41	0.50	0.33	0.01	0.03	0.00	0.58
因子 IV : 動的 ($\alpha=.70$)								
力強さを感じる。	0.40	-0.06	0.10	0.59	0.08	0.08	0.26	0.59
いさぎよさを感じる。	0.27	0.31	-0.06	0.55	0.00	0.03	0.15	0.50
活動的だと感じる。	0.17	-0.05	0.41	0.50	0.31	0.11	-0.14	0.57
豪快さを感じる。	0.28	-0.17	0.09	0.44	0.36	0.26	0.04	0.50
因子 V : 難解 ($\alpha=.57$)								
難しさを感じる。	0.28	0.02	-0.07	-0.01	0.68	0.15	0.07	0.58
複雑だと感じる。	0.05	0.02	0.09	0.12	0.61	0.00	0.05	0.40
※ 激しさを感じる。	0.04	-0.27	0.16	0.30	0.36	0.32	0.01	0.42
因子 VI : 苦痛 ($\alpha=.56$)								
※ 保守的だと感じる。	0.03	0.13	-0.10	-0.02	-0.11	0.59	0.09	0.39
苦痛に満ちていると感じる。	-0.05	-0.13	-0.08	0.04	0.30	0.52	-0.15	0.41
※ 男性的だと感じる。	0.09	-0.02	-0.08	0.10	0.08	0.49	0.05	0.27
危険だと感じる。	0.02	-0.41	0.02	-0.11	0.24	0.41	-0.29	0.49
因子 VII : 日本の伝統 ($\alpha=.65$)								
日本的だと感じる。	0.28	0.12	0.08	0.12	0.07	0.05	0.66	0.55
寄与率(%)	10.05	9.32	8.38	6.33	5.19	5.18	3.43	
累積寄与率(%)	10.05	19.37	27.75	34.08	39.28	44.46	47.89	

共通性または因子負荷量が低い項目(※の項目:両者とも0.4未満)を除き、因子解釈と α の算出をおこなった。

因子Ⅶは、「伝統的」、「日本的」といった、わが国古来の伝統をイメージさせる項目で構成されていることから、「日本の伝統」因子とした。

以上の結果を受けて、因子ごとに項目を整理し、各項目の平均値と標準偏差(種目別)を表3に示した。

また、各因子について α 係数を算出した結果、「品格」因子(因子Ⅰ)、「明快」因子(因子Ⅲ)、「動的」因子(因子Ⅳ)、「日本の伝統」因子(因子Ⅶ)については0.6以上という比較的高い値が得られたが、それ以外の因子では0.52~0.57であった。

4. まとめ

本報告では、共通体育受講者の武道に対するイメージを明らかにするための基礎資料として「共通体育受講生の武道に対するイメージの構造」を因子分析によって検討した。因子分析の結果、「品格」、「爽快安心」、「明快」、「動的」、「難解」、「苦痛」、「日本の伝統」の7因子が得られた。今後は以下の課題について、検討していく予定である。

課題1：柔道、剣道、弓道、空手の受講生における武道に対するイメージの差異

課題2：武道系種目の通年履修が武道に対するイメージの変化に及ぼす影響

表3 各因子を構成する項目の平均値と標準偏差(種目別)

因子名	因子を構成する項目	弓道 (N=39)		空手 (N=30)		剣道 (N=140)		柔道 (N=78)		合計 (N=287)	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
品格	礼節があると感じる	2.42	0.76	2.27	0.98	2.59	0.71	2.56	0.69	2.53	0.75
	厳しさを感じる	1.77	0.84	1.83	1.12	2.25	0.85	2.26	0.97	2.14	0.93
	伝統的だと感じる	2.64	0.67	1.57	1.36	2.59	0.68	2.46	0.83	2.46	0.87
	奥深さを感じる	2.33	0.90	2.23	0.97	2.54	0.95	2.54	0.70	2.48	0.88
	精神性があると感じる	1.82	1.10	1.73	1.41	2.20	0.98	1.96	1.19	2.03	1.11
	かっこよさを感じる	1.21	1.32	1.30	1.29	1.61	1.25	1.83	1.44	1.58	1.33
	硬派だと感じる	1.28	1.34	1.23	1.52	1.51	1.36	1.31	1.67	1.39	1.46
古さを感じる	1.95	1.15	1.23	1.36	1.65	1.27	1.65	1.54	1.65	1.35	
爽快安心	清潔さを感じる	0.00	1.49	0.13	1.55	0.36	1.65	-0.55	1.76	0.04	1.69
	爽しさを感じる	0.74	1.58	0.73	1.46	1.33	1.33	0.85	1.79	1.06	1.53
	静かさを感じる	1.05	1.32	0.70	1.62	0.88	1.51	-0.22	1.91	0.59	1.69
	すがすがしさを感じる	-0.10	1.47	0.47	1.46	0.49	1.40	0.40	1.77	0.38	1.53
	おたやかさを感じる	-0.18	1.75	0.17	1.62	-0.22	1.53	-0.85	1.74	-0.34	1.65
神秘的だと感じる	0.33	1.63	0.00	1.64	0.37	1.62	0.04	1.88	0.24	1.69	
明快	楽しさを感じる	0.29	1.66	0.27	1.62	0.01	1.55	0.64	1.59	0.24	1.59
	親しみやすさを感じる	-0.67	1.46	-0.33	1.65	-0.48	1.66	-0.38	1.71	-0.46	1.64
	おもしろさを感じる	0.85	1.51	1.13	1.41	0.64	1.40	1.47	1.38	0.95	1.45
	明るさを感じる	-0.92	1.35	-0.27	1.39	-0.51	1.22	-0.24	1.56	-0.47	1.36
動的	力強さを感じる	1.82	0.87	1.40	1.40	1.86	0.90	2.29	0.91	1.92	1.00
	いさよさを感じる	1.51	1.23	1.27	1.44	1.48	1.34	1.82	1.46	1.55	1.38
	活動的だと感じる	0.49	1.25	0.63	1.30	0.74	1.31	1.37	1.61	0.87	1.42
	豪快さを感じる	0.67	1.47	0.50	1.36	0.67	1.19	1.73	1.38	0.94	1.38
難解	難しさを感じる	1.56	1.27	1.13	1.48	1.66	1.14	1.79	1.24	1.63	1.23
	複雑だと感じる	0.87	1.32	0.63	1.54	0.60	1.47	1.10	1.55	0.78	1.49
	激しさを感じる	0.77	1.63	1.07	1.39	0.97	1.42	2.15	0.93	1.28	1.43
苦痛	保守的だと感じる	0.44	1.57	0.13	1.46	0.61	1.58	0.14	1.86	0.41	1.65
	苦痛に満ちていると感じる	-0.15	1.76	-0.70	1.39	-0.47	1.56	-0.44	1.76	-0.44	1.62
	男性的だと感じる	0.74	1.45	0.70	1.39	0.54	1.59	0.92	1.76	0.69	1.60
	危険だと感じる	0.18	1.48	-0.17	1.62	-0.41	1.54	0.49	1.72	-0.06	1.63
日本の伝統	日本的だと感じる	2.33	1.18	1.77	1.36	2.55	0.78	2.56	0.80	2.44	0.95

謝辞

本研究は、平成17年度体育センター教員拠出金による研究補助金を受けて行われました。ここに深く感謝の意を表します。

引用文献

花田敬一：大学生の武道に対するイメージについて。天理大学学报，154，1-62，1987。
加賀勝：武道に対するイメージに関する研究。岡山大学教育学部研究集録，94，19-24，1993。
木原資裕，今井三郎：正課体育「剣道」受講学生における剣道に対するイメージについて。大学体育研究，5，43-50，1978。
小俣幸嗣，中村良三，藤堂良明，佐藤伸一

郎，高橋幸治，青柳領：正課体育柔道受講生の柔道に対するイメージの研究。大学体育研究，15，11-22，1993。

田島東海男，久保武郎，木村昌彦：正課体育「剣道」に関するイメージの研究。防衛大学校紀要社会科学分冊，60，37-52，1990。

田島東海男，久保武郎，中村一成，木村昌彦：正課体育「剣道」に関するイメージの研究(2)剣道に対する興味の有無における比較。防衛大学校紀要社会科学分冊，62，41-57，1991。

田島東海男，久保武郎，中村一成，木村昌彦：正課体育「剣道」に関するイメージの研究(3)剣道経験者と未経験者の比較。防衛大学校紀要社会科学分冊，64，51-70，1992。